

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会
平成29年度 熊本県点字図書館事業実績報告書

熊本県における、視覚障がい者の情報提供施設としての点字図書館に期待されるものは大きく、その果たす役割も重要視されている。マラケシュ条約の批准や、読書バリアフリー法など、情報保障と地域格差が無いよう利用者への読書環境整備と録音再生機の説明会を開催し、福祉と文化の向上を図り最新情報機器支援を目的とした。今年度は、以下の行事・事業を行った。

また、今年度も「利用者の希望の声が多い情報端末機「スマートフォン・iPhone」や「らくらくスマートフォン」の視覚障害者向けの操作方法について「NTTドコモハーティ講座」をNTTドコモの協力により開催した。

弱視者（ロービジョン）の利用者に対しては、『拡大読書器』の貸出を行い、今年度新たな「視覚障害者用ポータブルレコーダー プレクストーク」が機種変更（PTR-3、PTN-3）となったが、機器の不具合により出荷が大幅に遅れ、プレクストークの修理及び給付申請の方には、当館所蔵のプレクストークの貸し出し対応を行った。

1. 蔵書の製作と充実に努めた。（別紙資料1, 2, 3参照）

(1) 点字図書 今年度 198タイトル 703冊

(昨年度 213タイトル677冊)が増加した。

内訳 厚生労働省委託図書、37タイトル（昨年度 50）

自館点訳図書 161タイトル（昨年度 156）

寄贈図書 0タイトル（昨年度 7）

累計蔵書数は、9,412（昨年度 9,214）タイトル
30,951（昨年度30,248）冊である。

(2) 録音図書（カセットテープ）

累計蔵書数は、8,684（昨年度 8,684）タイトル、
48,884（昨年度 48,884）巻である。

(3) デイジー図書（CD）の製作では、381タイトルが蔵書された。
（昨年度 384タイトル）

内訳 厚生労働省 41タイトル（昨年度 25）

自館音訳図書 318タイトル（昨年度 359）

寄贈図書 22タイトル（昨年度 0）

（マンガデイジー17タイトル、シネマデイジー2タイトル含む）

累計蔵書数は、8,187タイトル（昨年度 7,806）である。

点訳・録音増加図書が、点訳・音訳ボランティアの協力によって製作、校正、編集されている。

(4) 点字雑誌については、季刊1種(らしんばん)。

月刊情報雑誌 3種(点字ジャーナル・ライフ&ライフ・信仰)。

週刊雑誌1種(点字毎日)。

(5) 録音雑誌については、月刊情報雑誌他、週刊雑誌、年間数回発行されるものを含めて9種の音声情報資料の収集を図り、利用者の要望に対応した。おもなものを挙げると、(やまゆり・ダンスファン・暮らしの手帖・週刊現代・医道の日本・九視情協、熊点最新新刊図書案内・ラジオ深夜便)などがある。

デジ雑誌では、CD29種の貸出しがなされた。(にってんデジマガジン・医道の日本・選択・フォーサイト・文芸春秋・毎日ライフ・NHKきょうの健康・爽快・週刊現代・趣味の園芸・俳壇・流・新潮・世界等)。雑誌の種類も増えている。

カセットテープは、2タイトル(糖尿病ライフさかえ・暮らしの手帖)を貸し出した。

2. 貸出業務の拡大と充実を図った。(別紙資料4, 5, 6, 7参照)

(1) 点字図書の年間延べ貸し出し数は、57,769冊

(昨年度42,056冊)

録音図書(カセットテープ)の年間延べ貸し出し数は、7,097巻

(昨年度5,517巻)

CD図書の延べ貸し出し数39,585枚

(昨年度39,178枚)

(2) 実利用者数は点字図書135名。録音図書テープ図書11名。

デジ雑誌312名であった。

(3) 熊本県立盲学校に、点字児童図書を長期に貸出し、児童生徒の利用の拡大を図っている。

(4) 全国相互貸借による貸出しを行なった。

具体的には、「サピエ図書館」の活用により検索、貸出しを実施した。

3. 閲覧状況(別紙資料6参照)

閲覧については、閲覧室が整備されて以来、利用者にとって、学習(読書、訓練など)、研修、憩いの場所として有意義に活用された。諸行事等の開催により閲覧者の増加を図っている。今年度は対面読書の利用が

14名であった。

1年間の延べ閲覧者は次のとおりである。

点字図書 655人（昨年度 556人）

2,096冊（昨年度 1,779冊）

録音図書 885人（昨年度 662人）

1,593枚（昨年度 1,192枚）

点字教室を県身障者福祉センターで開催しているため閲覧が増加した。

音声版での利用は、視覚障害者用ポータブルレコーダー（デイジー再生機）の新規申請者や機種変更等、取扱い方法の説明での閲覧利用が増えた。

閲覧室のパソコンにて電子書籍やブレイルメモを利用したの閲覧を介し、サピエ図書館利用へと繋がっている他、スマートフォンの問い合わせも今年度は多かった。OSの変更でのパソコン操作やソフトまた、スマートフォンの個人対応は約20名。電話でのレファレンスサービスは月40件、年間約500件の対応を行った。

4. 活発な広報活動を行い利用の拡大を図った

(1) 「熊点だより」を、熊本県広報誌に寄稿し、新刊図書紹介や、団体情報等を掲載し、周知徹底に努めた。

(2) 図書目録（点字版・墨字版・音声版）を製作し、利用者の要望に対応した。

(3) 県内の、各視覚障がい者団体等との連絡、協調を図り、各種会合や諸行事等へ出席して、広報に努める他、利用者の要望を聞き利用の拡大を図った。（人吉市）

5. ボランティアの育成と活動の促進を図った

(1) 現在活動中のボランティアを対象に、点字図書館主催で、点字、朗読（音訳）研修会を、年数回開催し、正確な図書製作のための技術と資質の向上を図った。

(2) ボランティア団体（グループ）の育成および助成を図った。

「熊本県点訳音訳友の会」他、県内各地域のボランティア団体等の諸行事に参加し、日頃の活動に感謝するとともに、育成と活動の促進を図った。

(3) 音訳研修会において各デイジーを製作する上で協力できるボランティアの研修会を行った。シネマデイジー7名、研修回数3回、制

作数は2タイトル。漫画デイジー7名、研修回数4回を開催し制作数は、17タイトルを製作した。テキストデイジー5名、研修回数1回を行った。制作数は5タイトルであった。テキストデイジーは、製作実践、点字変換と点訳にも活用できるよう努めた。

- (4) 点訳図書・録音図書校正員を、63名委嘱して、年1回の研修会を開催し、校正技術の向上を図るとともに、正確な図書製作に協力を得ている。点字校正員 31名。触読校正者4名。録音校正員27名

6、 点字印刷業務

- (1) 熊本県広報誌「県からのたより」を年6回、「熊本市政だより」を年12回、「八代市広報」を年12回、「わたしたちの福祉」を年2回、などの点字印刷業務を受託し、製版、印刷、発送を行った。熊本市議会だより（いちょう）年4回製作発送した。「熊点だより」年6回制作発送した。
- (2) 公共団体、民間団体、個人等の依頼により、点字印刷その他視覚障害者に必要と思われる資料の製作、印刷、発送に努めた。特に行政情報としては、「公務員受験広報」、各種選挙広報等の製作を受託し、製作、印刷、発送に努めた。
- (3) 図書目録、各種機関誌他、関係資料の製作、印刷、発送に努めた。

7、 録音製作業務

- (1) 録音図書の自館製作については、音訳ボランティアの協力を得て利用者の希望図書を優先して製作した。
- (2) 職員研修会等へ参加し、ボランティア対応に努め、時代のニーズに対応すべき技術の向上と、製作への研修を図った。具体的には、CD図書への編集作業、直接パソコンへの録音、CD図書の製作を図っている。
- (3) 熊本県広報誌録音版、「県からのたより」を年6回、熊本市広報「声の市政だより」を年12、「宇土市広報」を年12回、「熊点だより、録音版」を年6回、製作、複写、発送している。熊本市議会だより年4回発送した。この他、山鹿市、合志市にも広報作成のための研修会に指導員の派遣を行った。また、人吉市音訳グループ「さくら会」・八代市「萌の会」の要請によりデイジー研修会を開催した。
- (4) 地域福祉が叫ばれる中、地域で活動しているボランティアグループの協力を得て、広報製作や利用者のデジタル化への推進を広め、

- 視覚障がい者の現状を踏まえ、各種学校・社協での取り組みに、視覚障がい者の協力者及び点訳・音訳奉仕員の派遣を行った。益城町・菊地市・荒尾市・玉名市・山鹿市・合志市・八代市・人吉市。
- (5) 公共団体、民間団体、個人等の依頼による音声情報製作を受託し、又、視覚障害者に必要と思われる資料の製作、複写に努めた。
音声版への対応は、利用者の要望も多く確実な実績があがった。
- (6) その他、月刊、週刊テープ雑誌等の製作、複写、発送に努めた。

8, 関係資料の収集、調査

全国図書目録、他館の図書館だより、「日本の点字図書館」等の資料を収集、調査、研究し図書館サービスの充実に努めた。
又、寄贈された点字書や録音版など利用者に紹介し、貸出を行った。

9, 職員研修会の開催、および参加

(1) 必要に応じて随時、施設内職員研修会を開催し、職員間の連携を図るとともに、視覚障害者への更生援護の専門技術の向上と、盲人用具や情報機器業務の円滑、充実に努めた。

(2) 九視情協主催による、研修会等への参加。

4月 福岡県, 九視情協館長会議 (理事会)。(篠原)。

9月15日 福岡市, 第31回九視情協大会、館長会議, 職員研修会。
(篠原、小山、窪井)。

16日 福岡県, 九視情協館長会議 (理事会)。(篠原)。

(3) 日盲社協、全視情協主催による職員研修会への参加

6月 日盲社協情報サービス運営委員会・日盲社協施設大会岐阜市
(篠原)

10月18・19日 大阪市にて, 第43回全視情協大会理事会・職員全体研修及び分科会 (篠原・宮本・石坂)

11月 日盲社協情報化対応支援者講習会 東京 (窪井)。

H30年

1月 テキストデイジー研修会 大阪 (宮本)

3月 電子書籍研修会 大阪 (宮本)

10, その他の事業

(1) ホームページにより、啓発活動及び情報開示に努めた。また、必要に応じて個別に、パソコン講座と情報機器講座を団体・個別と随時開催した。

- (2) 「サピエ図書館」へ参加し、パソコン通信により、点字データの収集を図るとともに、印刷、製作、提供の充実を図った。又、利用者の個人加入の広報に努め今年度は新規加入者 12 名であった。現在 155 名が加入し、活用している。
- (3) 「ふれあい感謝のつどい 2017」を 10 月に開催し、参加者 178 名。ボランティア 74 名、利用者等 104 名で情報機器や盲人用具の展示会やマッサージコーナー、ゲーム・アトラクションを行いグループ毎に交流を深め一日を過ごした。
- (4) 「読み代行サービス」、「熊日新聞拾い読み」事業を実施した。ファックスを利用し、電話で読みあげるサービスをし、7 件の依頼があった。
- (5) 音訳グループ『さわらび』の協力を得て、図書館サービスの充実を図った。対面読書サービスを実施した。利用者延 90 名各 2 時間計 180 時間。
- (6) 点訳・音訳ボランティアの協力を得て、プライベートサービスを実施し、利用者個人の希望により、点訳・録音図書を製作し要望に対応した。点字図書 31 タイトル 45 冊 5,002 頁。録音図書デジター（CD）139 タイトル 783 : 09 分であった。テキスト化への依頼 6 タイトル 1,982 頁。
- (7) 新規登録者の中途失明者及び家族に情報提供と、意見交換会を開催した。30 名の参加があり、今後も開催してほしいとの要望があった。
- (8) 施設見学や、点字体験学習など小中校あわせて 4 校に出向き実施した。11 月に福祉センターと地域交流会として、社会へ点字制定記念日の啓発活動及び点字体験コーナーを開催した。
- (9) 熊本県点字図書館等をネットワークとする「みるくまネット」を発足し、30 人の相談業務に務めた。
- (10) 新規利用者の拡大を図るとともに、社会への啓発活動及び支援活動として次の事業などに参加した。
 - ① ホームページを活用し新刊点字、録音図書の紹介をはじめ、催事情報、ボランティア活動、募集情報等を掲載した。
 - ② 熊本市通町のテレビジョンにて啓発活動ビデオを流していたが、今回サンロード新市街と下通入口のテレビジョンにも流していただけることとなり、その準備に務めた。
 - ③ 第 3 回ロービジョンを考える会に参加し、眼科医等との連携を図った。（石坂）